

ロシア

2008年上半期のロシア経済と日ロ貿易

鉱工業生産は前年同期比5.8%増となり、07年上半期(7.1%)に比べ成長率が下がった。固定資本投資の成長率も、前年同期比16.9%増と高い水準を維持しているが、前年上半期(23.7%)と比べると、勢いは鈍化している。小売売上高については、前年同期とほぼ同様の約15%増となったが、実質可処分所得は8.1%増と前年の水準(9.5%)を下回った。消費者物価上昇率(インフレ率)は8.5%、工業生産者物価上昇率は26.6%を記録した(表1)。

08年上半期、ロシアへの外国投資は465億ドル(前年同期比22.9%減;07年上半期は同2.6倍)となり、そのうち直接投資が110.8億ドルを占めた。

貿易総額は3,596億ドル(前年同期比50.2%増)を記録し、そのうち輸出が2,349億ドル(同52%増)輸入が1,247億ドル(同46.9%増)であった(表2)。

日ロ間の貿易額が急伸を遂げている。08年上半期には総額が約147億ドル(前年同期比55.7%増)を記録し、輸出が約81億ドル(同69.5%増)輸入が約65億ドル(同41.3%増)となった(表3)。

日本からロシアへの輸出では、乗用車が圧倒的割合(07年は70%)を占めるが、08年上半期も乗用車輸出が好調であり、すでに57億ドルを越えた(前年同期比66%増)。

エネルギー貿易が牽引する日本とロシア極東の経済関係

ロシアからの輸入品目では、原油(以下、粗油を含む)の占める割合が急増中であり、07年には、総額38億ドル弱(前年比5.4倍)に達した。その背景として、原油高の急騰もあるが、量的にも前年比4.2倍(688万キロリットル《593万トン相当》;日本の全世界からの輸入量の3%弱)となった(表4)。

08年上半期には、原油の輸入量は349万トン(前年比39%増)輸入額が26億ドル弱(前年比2.3倍増)となり、対ロ輸入総額の約4割を占めている¹。鉱物燃料(石油製品や石炭等を含む)全体では、対ロ輸入総額の57%(07年上半期は39%)を占める。

07年の日本と極東連邦管区の貿易総額は61億ドル(前年比53%増;対ロ輸出20億ドル;対ロ輸入41億ドル)となり、日本は同管区の対外貿易全体の29%(06年20%)を占め、再び中国(07年21%;06年27%)を抜いて首位となった²。同年、日本のロシアからの輸入総額の76%をサハリン州が占めたが、その大部分は原油である。また、日本の極東連邦管区に対する投資(3億3,350万ドル)の95%は同州に向けられた³。

ロシア極東経済の将来的発展は、原油及び天然ガスの開発・輸出の拡大規模が最大の鍵を握っている。極東連邦管区の輸出商品構成を見てみると、石油(原油と石油製品)が輸出総額の53%(07年)を占めており、サハリン州が事実上、そのほぼ全量を輸出している。09年以降、サハリン2からの対日LNG輸出の開始が予定されていることから、今後少なくとも短期・中期的には、「極東からのエネルギー製品輸出増大=サハリン州の輸出額増大=日本の対ロ輸入額増大」という構図が強化されて行くだろう。

但し、長期的にみれば、ロシア極東地域全体の経済発展は、大陸側、具体的にはサハ共和国に眠る油田・ガス田開発の帰趨によって大きく左右されよう。ロシア極東のエネルギー開発を巡り、現状では、連邦政府としての地域開発戦略(「2013年までの極東ザバイカル社会経済発展プログラム」⁴)や現在改訂中のエネルギー戦略(現在、「2020年までのロシア・エネルギー戦略(2003年8月政府承認)」を2030年まで延長する形で改訂中)ガスプロムやロスネフチ等の企業戦略の間に整合性が認められないだけでなく、外資参入の規制が強化されつつあること等、未知数は多い。

他方、中国とのエネルギー関係がぎくしゃくとしていること⁵、本年8月以来グルジア問題をめぐって対米・EU関係にも亀裂が生じたこと、といった国際政治力学上の観点からも、今後ロシアが対日関係に梃子入れを図ってくる可能性は強い。その中でエネルギー開発の協力問題が焦点となることは必至であるが、日本としては、ロシア側がこれまで拒み続けてきた国家保証付与の問題を含む様々な投資リスクを厳正に検討しつつ、是々非々の形で臨みたい。

(ERINA調査研究部研究主任 伊藤庄一)

¹ 「ロシアNIS経済速報(2008年8月25日号)」(社団法人ロシアNIS貿易会)掲載の数値より産出。以下、08年上半期の数値は同速報に依拠。

² 「2007年のロシア極東の貿易」『ロシアNIS調査月報(2008年9-10月)』、社団法人ロシアNIS貿易会、78-87頁。

³ 「2007年のロシア極東の外国投資受入状況」『ロシアNIS調査月報(2008年8月号)』、社団法人ロシアNIS貿易会、77-85頁。

⁴ 詳細については、『ERINA REPORT』Vol.80所収の動向分析(ロシア)。

⁵ 詳細については、拙稿「中・ロ関係におけるエネルギー協力 潜在性と相互不信のジレンマ」『石油・天然ガスレビュー』、vol.41、no.6、2007年、1-31頁。

(表1) ロシアのGDPと固定資本投資の成長率(前年同期比%)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007*	07・2Q	08・2Q
GDP(実質)	10.0	5.1	4.7	7.3	7.2	6.4	6.7	8.1*		
固定資本投資	17.4	10.0	2.8	12.5	13.7	10.9	13.7	21.1	23.7	16.9*
鉱工業生産高	8.7	2.9	3.1	8.9	8.3	4.0	3.9	6.3	7.1	5.8
小売売上高	9.0	11.0	9.3	8.8	13.3	12.8	13.9	16.1	15.3	15.2
実質可処分賃所得	12.0	8.7	11.1	15.0	10.4	12.4	13.3	10.4	9.5	8.1*
消費者物価**	20.2	18.6	15.1	12.0	11.7	10.9	9.0	11.9	7.9	8.5
工業生産者物価	31.9	8.3	17.7	12.5	28.8	13.4	10.4	25.1	8.8	26.6

*ロシア連邦国家統計庁HP発表の速報値/**2000～2007年は前年12月比。
出所：『ロシア統計年鑑(2007年版)』(ロシア連邦国家統計庁)；同庁HP。

(表2) ロシアの対外貿易額の推移(単位：10億ドル)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	07・2Q	08・2Q
輸出	103.1	100.0	106.7	133.7	181.6	241.5	301.2	352.5	154.5	234.9
輸入	33.9	41.9	46.2	57.3	75.6	98.7	137.8	199.7	84.9	124.7
収支	69.2	58.1	60.5	76.4	106.0	142.8	163.4	152.8	69.6	110.2
総額	137.0	141.9	152.9	191.0	257.2	340.2	439.0	552.2	239.4	359.6

(出所) ロシア連邦国家統計庁HP(もとは税関統計)

(表3) 日ロ貿易の推移(単位：100万ドル)

		2005	2006	2007	07・2Q	08・2Q	
輸出総額		4,485	7,065	10,741	4,805	8,143	
主な輸出品	一般機械	552	695	1,301	541	952	
	建設用・鉱山用機械	287	375	679	260	516	
		荷役機械	87	117	251	113	229
	電気機器	347	376	396	163	299	
	輸送用機器	3,175	5,378	8,205	3,723	6,259	
	乗用車	2,787	4,809	7,540	3,437	5,703	
		バス・トラック	248	443	503	202	415
輸入総額		6,205	6,658	10,540	4,619	6,527	
主な輸入品	食料品	1,145	1,001	1,041	454	615	
	原料品	822	961	1,064	701	355	
		木材	723	866	934	632	292
	鉱物性燃料	2,024	1,915	5,228	1,811	3,707	
	原油及び粗油	699	699	3,764	1,143	2,589	
		石油製品	496	455	509	225	474
		石炭	895	757	949	442	640
	原料別製品	2,019	2,640	3,084	1,588	1,751	
	非鉄金属	1,779	2,357	2,744	1,433	1,496	
	総額	10,690	13,723	21,281	9,424	14,670	

(出所) 財務省関税局(独立行政法人日本貿易振興機構HP掲載資料)より作成；2007・2008年上半年期については、「ロシアNIS経済速報(2008年8月25日号)」、社団法人ロシアNIS貿易会。

(表4) 日本のロシア産原油輸入量

	2005	2006	2007
キロリットル	1,778,590	1,638,257	6,875,002
トン	1,534,923	1,413,816	5,933,127

(出所) 同上。